

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都府知事 報告者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) 東京都江東区東陽 7-2-18		平成 27年 7月 31日 報告者の氏名 (法人にあっては、名称及び代表者名) 株式会社 日立物流 代表執行役社長 中谷 康夫 電話 06-6462-7010					
主たる業種	倉庫業 <span style="float:right">細分類番号 4   7   1   1</span>						
事業者の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号						
計画期間	平成26年4月から平成29年3月まで						
基本方針	平成25年度を基準に、計画期間中に温室効果ガス排出量を年平均2%以上削減する。						
計画を推進するための体制	西日本統括本部内にて、環境推進部署(安全品質環境G)と技術部署(LEG)が連携して実施計画の策定をす ると共に、環境推進部署(安全品質環境G)にて当該実施計画の進捗管理を実施する。						
温室効果ガスの排 出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (25) 年度	第1年度 (26) 年度	第2年度 (27) 年度	第3年度 (28) 年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	4,379.1 トン	3,780.0 トン	トン	トン	-13.7 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	4,379.1 トン	3,780.0 トン	トン	トン	-13.7 パーセント	
	実績に対する自己評価 「グリーン経営認証」の活用、日立製作所の節電診断、日々の空調温度設定、不使用時の消灯等の各種施策を行ったことに加えて、当初想定の出荷作業量に至らなかったことが、マデハン設備、空調、照明等の電気使用量減少に繋がり、目標を達成する。						
原単位当たりの温 室効果ガス排出量 等	事業の用に供す る建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (25) 年度	第1年度 (26) 年度	第2年度 (27) 年度	第3年度 (28) 年度	増減率
	倉庫・事務所	事業活動に伴う排出の量 (延べ床面積)	26.73	27.51			2.92 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ( )					パーセント
	実績に対する自己評価 「グリーン経営認証」の活用、日立製作所の節電診断、日々の空調温度設定、不使用時の消灯等の各種対策を行うも、延床面積あたりの電気使用量の増加を抑えることが出来ず、目標が未達成となる。						
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度 (25) 年度	第1年度 (26) 年度	第2年度 (27) 年度	第3年度 (28) 年度	備考	
		100.0 パーセント	100.0 パーセント	パーセント	パーセント		
具体的な取組及び 措置の内容	(26) 年度	日々の事業所内の空調温度設定、不使用時の消灯等に加えて、「グリーン経営認証」の活用、日立製作所の節電に向けての診断を活用した。					
	(27) 年度						
	(28) 年度						
通勤における自 動車等を使用 することを控え させるために実 施した措置	措 置 の 内 容	事業所近隣駅より通勤バスを運行する。					
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	通勤バスを運行することで、所員の公共交通機関の利用を促進する。					
森林の保全及び 整備、再生可能 エネルギーの利 用その他の地球 温暖化対策に よって削減した 量	区 分	第1年度 (26) 年度	第2年度 (27) 年度	第3年度 (28) 年度	備 考		
	森林の保全及び整備によるもの	トン	トン	トン			
	地域産木材の利用によるもの	トン	トン	トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	トン	トン	トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	トン	トン	トン			
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	トン	トン	トン			
	合 計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
地球温暖化対策に 資する社会貢献活 動	廃棄物について、4R化(Refuse・買わない、使わない/Reduce・買う量、使う量を減らす/Reuse・繰り返し使う/Recycle・資源に再生して再利用)、及び排出量の把握等に取り組むと共に、定期的な社内監査も実施する。						
特 記 事 項	第一計画期間の超過削減量を、第二計画期間の温室効果ガス排出量から次のとおり差し引く。						
	超過削減量	第1年度	第2年度	第3年度			
	トン	トン	トン	トン			
	2015年1月1日付けにて、関西AE営業所、大山崎営業所を統合し、大山崎AE営業所とする。						

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。  
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。  
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。  
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。